



2017年（平成29年）10月期

第2四半期決算説明会資料

株式会社オービス

代表取締役社長 なかはま ゆうじ
中浜 勇治

(東京証券取引所（ジャスダック市場）、証券コード：7827)

2017年6月23日

1



2017年10月期第2四半期決算説明会資料

PART1 会社の概要

PART2 2017年10月期第2四半期の個別業績



PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2017年10月期の業績予想

2

ニュージーランド松製材の国内最大手

当社は、木材、ハウス・エコ、ライフクリエイト、不動産の4つの事業を基盤にビジネスを展開しております。特に主力の木材事業では、ニュージーランド松（ラジアータパイン）製材の国内最大手の評価を頂いております

会社名	株式会社オービス	社名の由来  オービス（ORVIS）とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております
設立	昭和34年11月	
代表取締役社長	中浜 勇治（なかはま ゆうじ）	事業拠点  福山本社 大阪 仙台 姫路 東京 岡山 千葉 豊栄 名古屋 広島
資本金	6億8,498万円	
従業員数	179人（2017年04月末現在）	
売上高	42億円（2017年04月期末）	
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築及び太陽光発電システムの請負、自然エネルギー等による発電事業、フィットネスクラブ及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買	
本社	〒729-0104 広島県福山市松永町六丁目10番1号	
連結子会社	該当なし（2016年05月に株式会社パルを吸収合併）	

経営理念

顧客満足・社員満足

当社の経営理念「顧客満足・社員満足」は、「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様にも利益を還元していく」という意味をあらわしております

■ 当社の主要な沿革

昭和34年11月 昭和37年05月	有限会社中浜材木店を設立 広島県世羅郡世羅西町（現世羅町）に製材工場を建設	平成14年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、営業開始
昭和43年03月	ニュージーランド松の製材工場建設 同時にプレハブ部材の生産開始	平成15年05月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、不動産賃貸開始
昭和46年06月	広島県福山市に製材工場移転 同時にプレハブハウスの完成品を販売開始	平成18年09月	ジャストタック証券取引所に上場 （現東京証券取引所JASDAQ市場） 木材事業姫路工場稼働開始 （平成26年11月閉鎖）
昭和49年09月	有限会社中浜材木店を組織変更し、中浜木材株式会社を設立	平成20年08月	太陽光発電/パネル等の施工・販売の開始 フィットネスクラブ「スボパル」オープン
昭和62年12月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、不動産賃貸開始	平成22年02月	カラオケ事業から撤退
平成01年04月	カラオケハウスの製造販売開始	平成27年11月	広島県福山市松永町へ本社を移転
平成04年04月	株式会社オービスに商号変更	平成28年01月	株式会社パルを吸収合併
平成12年12月	パナマにTUI MARITIME S.A.を設立 （平成26年09月解散）	平成28年04月	
平成14年08月	木材運搬船「グリーンホープ」（最大積重量35,000トン）完成、航海開始 （平成26年05月売却）	平成28年05月	

PART1 会社の概要

PART2 2017年10月期第2四半期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2017年10月期の業績予想

1. 要約四半期貸借対照表

▶ 当社は2016年05月に100%連結子会社の株式会社八しを吸収合併いたしました。従いまして、2016年10月期（連結）から個別決算へ移行しておりますが、前年同期の数値は、100%連結子会社との合併であるため、連結数値を記載しております。

(単位：百万円)

摘要	2016年 第2四半期末 (連結)	構成比	2017年 第2四半期末 (個別)	構成比	増減
◆ 流動資産	5,343	52.4%	5,002	40.2%	△340
◆ 固定資産	4,854	47.6%	7,454	59.8%	2,600
資産合計	10,197	100.0%	12,457	100.0%	2,259
◆ 流動負債	4,408	43.2%	5,938	47.6%	1,530
◆ 固定負債	3,528	34.6%	4,033	32.4%	504
負債合計	7,936	77.8%	9,972	80.0%	2,035
純資産	2,260	22.2%	2,485	20.0%	224
負債・純資産合計	10,197	100.0%	12,457	100.0%	2,259

(単位：%)

自己資本比率	22.2	▲	20.0
有利子負債比率	54.5	▲	58.3

主な増減理由

- ▶ 流動資産⇒現金及び預金 △437百万円〔前年同期は、工コ部門の大型物件の施工代金回収のため、預金残高が一時的に増加〕
- ▶ 固定資産⇒機械装置及び運搬具 +908百万円〔売電目的の太陽光発電設備の取得による増加〕
- ▶ ⇒建設仮勘定 +1,674百万円〔木材福山工場の建物代金及び製材機械の手付金支払による増加〕
- ▶ 流動負債⇒短期借入金 +1,060百万円〔木材福山工場建設に係るつなぎ資金が増加〕
- ▶ ⇒設備支払手形 +321百万円〔木材福山工場建設に係る支払手形が増加〕
- ▶ 固定負債⇒長期借入金 +469百万円〔売電目的の太陽光発電設備の取得資金及びハウス部門の官公庁長期回収物件に対応する借入が増加〕
- ▶ 純資産 ⇒利益剰余金 +217百万円〔四半期純利益の計上〕

2. 要約四半期損益計算書

当社は2016年05月に100%連結子会社の株式会社ハルを吸収合併いたしました。従いまして、2016年10月期（通期）から個別決算へ移行しておりますが、前年同期の数値は、100%連結子会社との合併であるため、連結数値を記載しております。

(単位：百万円)

摘要	2016年 第2四半期 累計実績 (連結)	百分比	2017年 第2四半期 累計業績予想 (個別)	2017年 第2四半期 累計実績 (個別)	百分比	対前年 同期比	対業績 予想比
売上高	5,419	100.0%	4,156	4,232	100.0%	78.1%	101.8%
売上総利益	1,109	20.5%	743	681	16.1%	61.4%	91.7%
販売費及び 一般管理費	576	10.7%	615	598	14.1%	103.9%	97.3%
営業利益	533	9.8%	127	82	2.0%	15.5%	64.8%
経常利益	515	9.5%	96	62	1.5%	12.2%	65.0%
四半期純利益	411	7.6%	86	212	5.0%	51.8%	246.5%
1株当たり 四半期純利益	237円66銭	—	49円90銭	123円00銭	—	—	—

主な増減理由

- ▶ 木材事業⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ (生産及び受注は高水準を維持しているものの、原材料のニュージーランド松の価格は最大消費国である中国の丸太輸入量が再び増加に転じた影響などにより上昇・高止まりし、製品販売価格は競合樹種であるチリ材の安値販売の影響で低下)
- ▶ ハウス・エコ事業⇒⇒ (前年同期に大型物件の完工が相次いだ反動減により売上高は大幅に減少)
(売電目的の太陽光発電所の稼働は、前年同期の4.5MWから10.0MWへ倍増)
- ▶ 全体⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒ (将来の課税所得等の見積により繰延税金資産135百万円の追加計上があったものの、主力の木材、ハウス・エコ事業の低迷により大幅な減収・減益)

3. 要約四半期キャッシュ・フロー計算書

当社は2016年05月に100%連結子会社の株式会社ハルを吸収合併いたしました。従いまして、2016年10月期（通期）から個別決算へ移行しておりますが、前年同期の数値は、100%連結子会社との合併であるため、連結数値を記載しております。

(単位：百万円)

摘要	2016年 第2四半期 累計期間 (連結)	2017年 第2四半期 累計期間 (個別)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,107	△364
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,412	△1,516
財務活動によるキャッシュ・フロー	597	1,531
現金及び現金同等物の四半期末残高	893	456

フリーキャッシュ・フローの獲得が課題

主な増減理由

- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー
 - 税引前四半期純利益 + 89百万円
 - 減価償却費 + 148百万円
 - 売上債権の増加額 △591百万円 (ハウス・エコ事業の売上計上時期が3月及び4月に集中、一時的に売上債権が増加)
 - 前渡金の増加額 △170百万円 (木材事業の原材料仕入計上 (通関) のタイミング差)
 - 仕入債務の増加額 + 239百万円 (ハウス・エコ事業の売上計上時期が3月及び4月に集中、一時的に仕入債務が増加)
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー
 - 有形固定資産の取得による支出 △1,548百万円 (木材福山工場の建物代金・製材機械の手付金支払及び売電目的の太陽光発電設備の取得)
- ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー
 - 短期借入金の増加額 + 1,250百万円 (木材福山工場建設に係るつなぎ資金が増加)
 - 長期借入れによる収入 + 835百万円 (売電目的の太陽光発電設備の取得資金及びハウス部門の官公庁長期回収物件に対応する借入が増加)
 - 長期借入金の返済による支出 △517百万円 (約定弁済による減少)

4. セグメント業績 木材事業

▶ 当社は2016年05月に100%連結子会社の株式会社ハルを吸収合併いたしました。従いまして、2016年10月期（通期）から個別決算へ移行しておりますが、前年同期の数値は、100%連結子会社との合併であるため、連結数値を記載しております。

- ▶ 販売の基本方針は、安値販売を排除し、適正な販売価格を維持すること（必要以上に出荷量の拡大を問わず）
- ✓ お客様への営業訪問回数を増加し、顧客ニーズを的確に把握
- ✓ NZ材等製品出荷量は44千㎡（前年同期比108.9%）
- ✓ NZ材等製品平均販売価格は、競合樹種であるチリ材の安値販売の影響で低下（前年同期比94.8%）
- ▶ 国産スギ・桧・北海道カラ松等の商材販売量は25千㎡（前年同期比109.9%）。短納期対応のものや本社工場（広島県福山市）から遠方（関西以東）のお客様には、商材販売を積極的に活用
- ✓ 関西以東のお客様への供給体制を更に強化するため、北海道カラ松等の新規仕入先を重点的に開拓
- ✓ 商材仕入に係る物流コストの削減を目的に、配送を仕入先手配から当社手配へと切り替え
- ▶ NZ材等製品出荷量及び国産スギ・桧・北海道カラ松等の商材販売量の合計は69千㎡（前年同期比109.3%）
- ▶ 丸太価格（NZ松）は、最大消費国の中国需要が旺盛で高騰（前年同期比112.0%）
- ✓ 生産及び受注は好調を維持。丸太消化量は70千㎡（前年同期比108.3%）



輸出用梱包材



パレット材



電線ドラム材

摘要	2016年 第2四半期 累計実績 (連結)		2017年 第2四半期 累計実績 (個別)		
	金額	百分比	金額	百分比	対前年 同期比
売上高	2,389	100.0%	2,491	100.0%	104.3%
営業費用	2,111	88.4%	2,421	97.2%	114.7%
営業利益	278	11.6%	69	2.8%	25.0%
平均為替 レート	120円25銭	—	109円51銭	—	91.1%

(単位:百万円)

4. セグメント業績 ハウス・エコ事業

▶ 当社は2016年05月に100%連結子会社の株式会社ハルを吸収合併いたしました。従いまして、2016年10月期（通期）から個別決算へ移行しておりますが、前年同期の数値は、100%連結子会社との合併であるため、連結数値を記載しております。

- ▶ 前年同期に大型物件の完工が相次いだ反動減により売上高は15億5百万円（前年同期比56.9%）
- ✓ 当四半期は公共工事・民間工事とも請負契約が数千円クラスが主体。億単位の大口案件が減少
- ✓ 粗利率の向上を目的とした受注時採算性の強化、原価・施工管理の徹底を継続
- ✓ 引き続き、官公庁の仮設校舎や放課後児童クラブ等の入札へ積極的に参加
- ▶ 太陽光発電所の売電収入は1億51百万円（前期比174.7%）
- ✓ 太陽光発電所の発電規模は、前年同期の約4.5MWから約10.0MWへ倍増
- ✓ 2017年6月に約0.85MW、2018年2月に約1.5MWの太陽光発電所がそれぞれ稼働予定
- ✓ 当社の太陽光発電所は自社施工。一般的な施工価格に比べ2~3割安く施工することが可能
その結果、投資利回りが非常に高く投資額の回収期間は5年~7年を想定



官公庁保育所仮園舎



寮施設

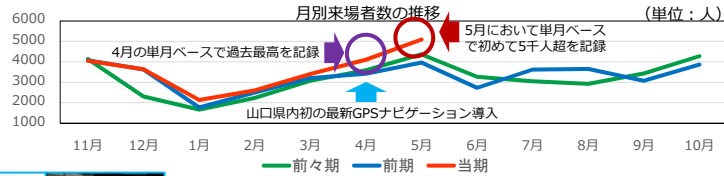
摘要	2016年 第2四半期 累計実績 (連結)		2017年 第2四半期 累計実績 (個別)		
	金額	百分比	金額	百分比	対前年 同期比
売上高	2,645	100.0%	1,505	100.0%	56.9%
営業費用	2,319	87.7%	1,415	94.0%	61.0%
営業利益	326	12.3%	89	6.0%	27.6%

(単位:百万円)

4. セグメント業績 ライフクリエイイト事業

▶ 当社は2016年05月に100%連結子会社の株式会社ハルを吸収合併いたしました。従いまして、2016年10月期（通期）から個別決算へ移行しておりますが、前年同期の数値は、100%連結子会社との合併であるため、連結数値を記載しております。

- ▶ ゴルフ場部門は、積極的に設備投資を行い新たな事業基盤を構築し、他コースとの差別化に努めた結果、来場者数は増加（前期比107.2%）
- ✓ 最新GPSナビゲーションの導入及びゴルフカートの更新
- ✓ 高品質で効率的なコースメンテナンスを実現するための作業機械の導入



中須ゴルフ倶楽部のGPSナビ（上段）
スポハル緑町店のインドアサイクル（下段）

- ▶ フィットネスクラブは、女性向けのインドアサイクルや体組成計の導入により新たなサービスの提供開始。新規入会者の獲得と退会者の抑制に注力

摘要	2016年 第2四半期 累計期間 (連結)		2017年 第2四半期 累計期間 (個別)		
	金額	百分比	金額	百分比	対前期比
売上高	175	100.0%	188	100.0%	107.5%
営業費用	220	125.9%	200	106.3%	90.8%
営業損失(△)	△45	-	△11	-	-

PART1 会社の概要

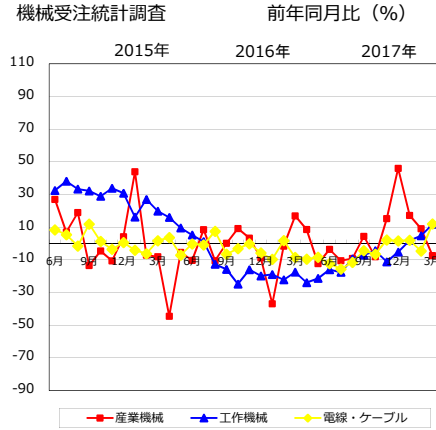
PART2 2017年10月期第2四半期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2017年10月期の業績予想

■ 木材事業の市場環境 ①～梱包用材のエンドユーザーの環境

▶ 産業機械及び工作機械の受注状況
内閣府経済社会総合研究所
機械受注統計調査



✓ 季節的要因はあるものの、いずれも受注は回復傾向

▶ 輸出の状況 (財務省貿易統計) (十億円,%)



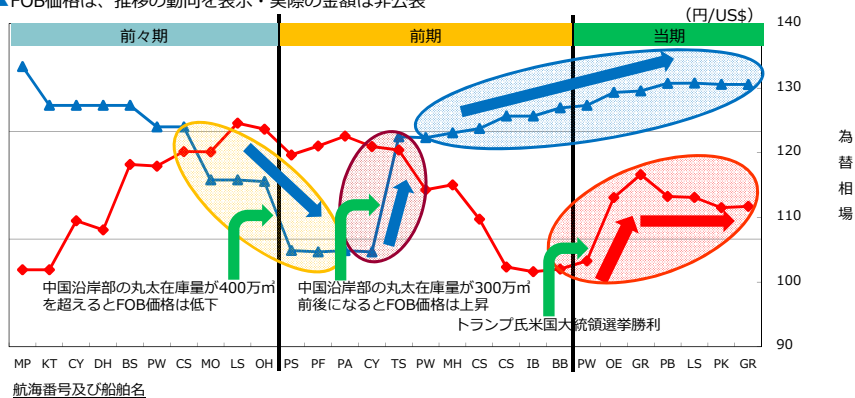
※輸出数量指数は2010年を100とした数値

✓ 輸出金額は増加傾向・輸出数量は低調

■ 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

▶ 為替とFOB価格の推移

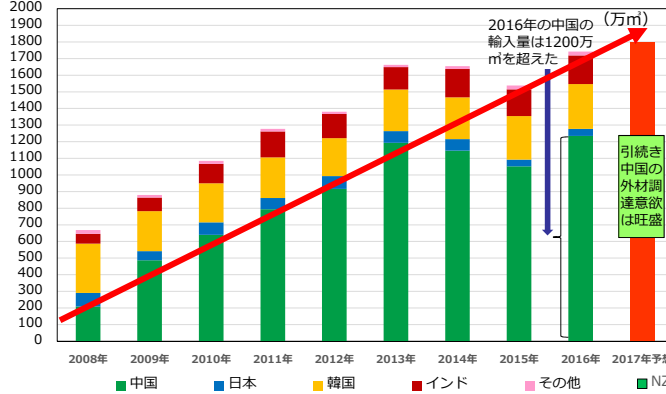
- 為替は、各航海の平均為替レートを表示 (右軸)
- ▲ FOB価格は、推移の動向を表示・実際の金額は非公表



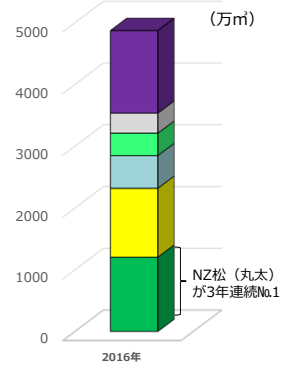
- ▶ 為替 (対米ドル) は、2016年11月にトランプ氏の米国大統領選挙の勝利を受けて**101円から1ヶ月で118円へと円安が急激に進行**。その後も110円前後で推移
- ▶ NZ松 (丸太) のFOB価格は、前期の第2Qまでは最大消費国の中国経済の停滞により弱含みで推移。第3Q以降同国の丸太在庫量の調整が進み大幅上昇。当期に入っても航海毎に数ドルずつ上昇
- ▶ NZ松 (丸太) のFOB価格は、最大消費国である中国の需要・購買意欲次第で大きく上下に振れる構造

■ 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

▶ ニュージーランド松（丸太）の国別輸入量



▶ 中国の国別丸太輸入量

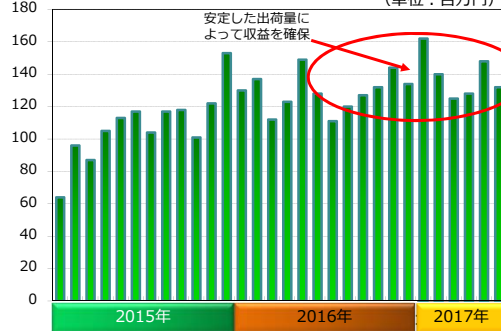


- ▶ NZ松（丸太）全体の国別輸入量は、2016年において中国が1200万m³（全体の約7割、日本は約42万m³）超となり、過去最高を更新
- ▶ 2016年の中国经济成長率は6.7%と以前より鈍化したが生、木材需要は天然林の伐採禁止に伴いNZ松（丸太）を中心とした外材調達意欲は引き続き旺盛

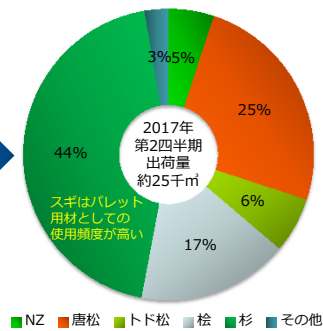
■ 木材事業：取組みの進捗状況

- ▶ 製品出荷量は44千m³（予算比102.1%）
- ▶ 丸太消化量は70千m³（予算比102.2%）、丸太価格は予算比105.8%
- ▶ 国産スギ丸太の仕入先を中国・四国・九州を中心に更なる開拓を実行
- ▶ 製品を適正価格で販売（予算比100.6%）〔安値販売の排除を徹底〕
- ▶ 国産材（スギ・桧・北海道カラ松等）及びLVL等の商材を拡販
 - ✓ 既存の販売ルートを活用、NZ材以外の商材を販売
 - ✓ スギ・桧・北海道カラ松で商材出荷量全体の約9割を占める
 - ✓ 北海道カラ松を主として仕入先の更なる開拓を行い、新規・休眠顧客の掘り起こしに注力
 - ✓ 当四半期の商材売上高は8億38百万円（予算比112.7%）

商材売上高の推移 (単位: 百万円)



商材の樹種別出荷量



■ 木材事業：今後の取組み ①～福山工場（新工場）の建設



✓ 福山工場建設現場（2017年06月14日撮影）

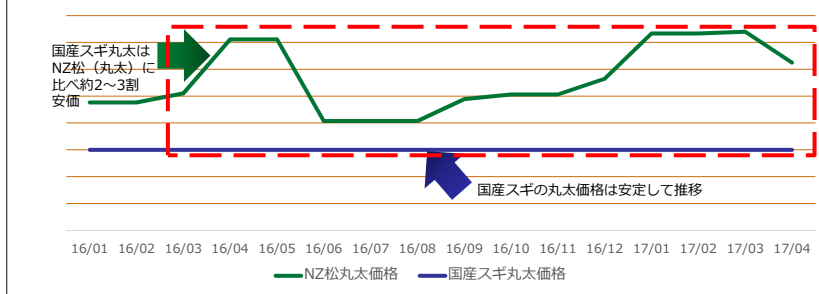
■ 木材事業：今後の取組み ②～福山工場（新工場）の建設

- ▶ 木材事業福山工場（新工場）の建設理由
 - ✓ 昭和62年に建設され30年が経過し老朽化が進んだ現工場を移転し、更なる生産効率・品質の向上を図る
 - ✓ 姫路工場操業停止（2014年4月⇒同年11月閉鎖）以降、2交代で操業を続ける現工場の労働環境を改善
 - ✓ 広島県福山市から2016年2月に売却された近隣土地を落札
- ▶ 木材事業福山工場（新工場）の概要
 - ✓ 名称及び住所・・・株式会社オービス福山工場、広島県福山市柳津町1丁目11番8号
 - ✓ 総投資額・・・約49億円（銀行借入を予定）・・・うち約9.5億円は広島県からの補助金交付が決定済
 - ✓ 工期・・・2016年11月～2018年3月（本稼働は2018年11月を予定・・・更に早期稼働を目指す）
- ▶ 福山工場（新工場）建設の主なメリット

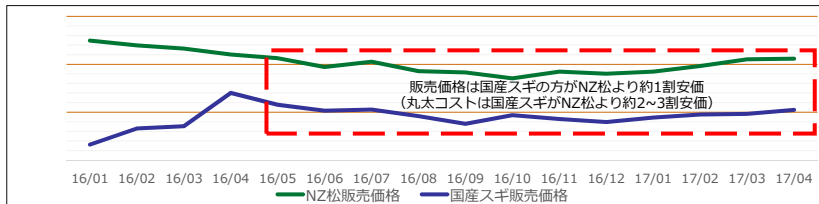
摘要	現工場	福山工場（新工場）	メリット
原材料	NZ松（丸太）	NZ松（丸太）及び 国産スギ（丸太）	✓ 為替動向やFOB価格等の外的要因に影響を受けにくい国産スギの生産開始。品種の相違する原材料を調達することで安定的な原材料の確保と効率的な営業戦略を実行することが可能
年間生産量	約132千m ³	現工場と同量を 日勤のみで生産可能	✓ 残業や休日出勤の減少により1m ³ 当たりの製造コストを削減
工場敷地面積	約10千m ²	約21千m ²	✓ 現工場の2倍以上の敷地面積を有し、生産ラインの大幅な効率化を実現
工場従業員の勤務形態	日勤と夜勤の2交代制 （残業＋土曜日稼働）	日勤 （残業無の土曜日休暇）	✓ 工場従業員確保の問題解消 ✓ 労働環境の改善
歩留率	-	現工場より最低1%向上	✓ 1%の向上で年間30百万円～40百万円の利益増加
長さ4m ³ 超の製材	製材不可 （少量を外注生産）	長さ4m ³ 超も製材可能	✓ 大口輸出梱包業者への販路拡大 ✓ 納期大幅短縮に伴う受注の増加

■ 木材事業：今後の取組み ③～福山工場（新工場）の建設

➢ NZ松と国産スギの丸太価格（1㎡当たり）の推移（仕入ベース）※実際の仕入単価は公表していない

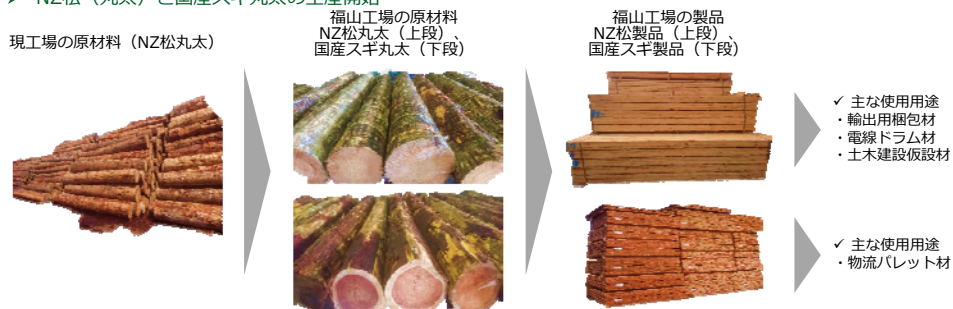


➢ NZ松と国産スギの販売価格（1㎡当たり）の推移 ※実際の販売価格は公表していない



■ 木材事業：今後の取組み ④～福山工場（新工場）の建設

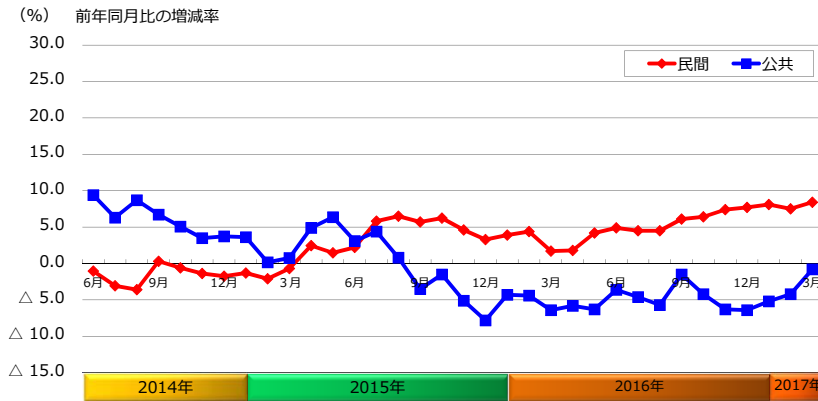
➢ NZ松（丸太）と国産スギ丸太の生産開始



- 現工場（NZ松丸太生産）の製造コストに占める原材料費の割合は約8割（前期に比べ約5ポイント上昇）
- 物流用パレット材は、国産スギ製品への代替が定着（1m超の長さにカットして使用）
- NZ松（丸太）の現地価格は中国需要によって大きく変動。**国内の製材工場は梱包材・パレット材等の実需に関係なく原材料コストが大幅に変動し、収益を確保しづらい状況**
- 樹種別で高齢級になるほど、スギ比率が高く今後スギ大径低質材の生産量の増加が予想され、十分な国内需要があるとは言い難い状況
- 福山工場（新工場）で生産する国産スギ丸太は、一般的な製材工場（柱・梁桁等の生産）で需要が少ない大径低質材を活用。**NZ松（丸太）と比較して安価で調達（継続的）を行うことが可能**
- 梱包材等は消耗資材であるため、お客様の最優先事項は納期と販売価格→安価な国産スギ丸太の生産開始→**更なるお客様ニーズに対応可能**
- 原材料の調達（これまではNZ丸太1樹種）に対するリスクヘッジが可能

■ ハウス・エコ事業の市場環境

➢ 建設総合統計（出来高ベース）国土交通省公表



✓ 建設需要は、民間投資は持ち直しの兆しがあるものの、公共投資は依然として低迷が続く

● ハウス・エコ事業：今後の取組み

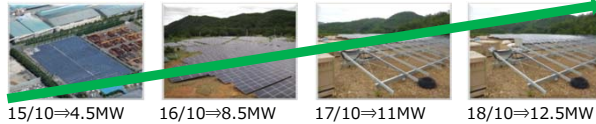
➢ 建設需要への取組み

- ✓ 学校の耐震改修のための仮設校舎や放課後児童クラブ等の官公庁入札へ積極的に参加
- ✓ プレハブ建築以外の重量鉄骨による在来工法やシステム建築等に積極的に取組み、億単位の大型物件の受注獲得と受注件数の増加を目指す
- ✓ 選別受注の実践による現在及び将来にわたっての利益率向上への更なるこだわり（利益率重視の取組みが浸透しつつある）
- ✓ 継続的成長を目指した計画的人材育成の実践
- ✓ 2017年は国内景気の不透明感や労務費の高騰、資材価格上昇等の懸念材料があるが、従来にも増して原価・施工管理の徹底の回り、現場力の強化を推進

➢ 太陽光発電への取組み

- ✓ 再生可能エネルギー政策の転換に合わせ、50kW以下の低圧案件の取込みに注力
- ✓ 売電目的の太陽光発電所の建設を加速（フル稼働の場合、年間5億円超の売電収入が見込まれる）

◆ 売電目的の太陽光発電所の稼働状況と稼働予定



◆ 重量鉄骨在来工法等（工場）



◆ ゴルフ練習場棟



◆ 寮施設



●ライフクリエイイト事業：今後の取組み

- ▶ ゴルフ場部門は、お客様の利便性の向上を目的とした設備の導入・改修及び各種イベントを積極的に開催し、近隣コースとの差別化を図り、更なる魅力あるゴルフ場づくりへの取組みを実行
 - ✓ 従業員チャレンジコンペの開催増加
 - ✓ GPSナビゲーションシステムの追加導入及びカート道路の改修工事
 - ✓ フェアウェイへの目土を継続（良好なコース状態を継続的に維持）
 - ✓ 静脈認証によるチェックインサービスのビジター様への普及
 - ✓ 季節毎に厳選された食材をふんだんに使用した飲食メニューを提供
- ▶ フィットネス部門は、第3四半期以降、単月で初めての営業黒字化を目指す
 - ✓ 入会・紹介キャンペーンの実施、各種イベントを積極的に開催
 - ✓ 定期回数券の販売及び物品販売等により会費外収入の増加を目指す



静脈認証チェックインサービス



スポパル福山緑店のキャンペーン広告（広島県福山市）



中須ゴルフ倶楽部（山口県周南市） 厳選された飲食メニュー



PART1 会社の概要

PART2 2017年10月期第2四半期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2017年10月期の業績予想

1. 個別業績予想（通期）

（単位：百万円）

摘要	2016年 （個別）	百分比	2017年 （個別）	百分比	対前期比
売上高	8,957	100.0%	8,281	100.0%	92.5%
売上総利益	1,646	18.4%	1,551	18.7%	94.2%
販売費及び一般管理費	1,067	11.9%	1,241	15.0%	116.3%
営業利益	579	6.5%	310	3.7%	53.6%
経常利益	547	6.1%	245	3.0%	44.8%
当期純利益	523	5.8%	219	2.6%	41.9%
1株当たり当期純利益	302円25銭	—	126円68銭	—	—

➤ 通期の業績予想は、当第2四半期累計期間に繰延税金資産135百万円の追加計上により四半期純利益は212百万円を計上しているものの、市場動向や為替相場、ニュージーランド産丸太の現地価格など、先行き不透明な要素が多いことから、前回予想値を据え置いております

2. 株主還元－配当方針と実績

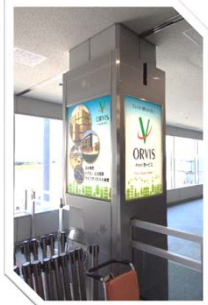
9 当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題と認識しており、将来の事業計画、設備投資及び経営安定化のための内部留保に努めると共に、業績に応じた適正な利益配分を考慮しつつ、安定的な配当を継続して実施していくことを基本的な方針としております

摘要	中間配当 （円）	期末配当 （円）	年間配当 （円）	当期純利益 （千円）	配当性向 （%）
2011年10月期	0.00	0.00	0.00	48,377	—%
2012年10月期	0.00	5.00	5.00	65,692	13.2%
2013年10月期	0.00	0.00	0.00	△1,153,387	—%
2014年10月期	0.00	10.00	10.00	1,241,579	1.4%
2015年10月期	0.00	10.00	10.00	370,254	4.7%
2016年10月期	0.00	15.00	15.00	523,211	5.0%
2017年10月期（予定）	0.00	15.00	15.00	219,288	11.8%

個別決算へ移行

9 安定的な配当を継続して実施することを基本的な方針としておりますが、早期に具体的な配当性向の目標値を定めたいと考えております

●本資料お取扱上のご注意



2017年06月より広島空港搭乗口 (JAL側) に広告を行っております

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

➤ IR担当窓口



株式会社 オービス 経理部 井上清輝
 Tel. 084-934-2621 (代)
 Fax. 084-934-2624
 E-mail : ir@orvis.co.jp
 URL : http://www.orvis.co.jp